

(3) 広域での観光事業のあり方と実現性について

Hさん： 土佐市のような小さな地域に山・海・川全ての自然に恵まれ、食材に恵まれたこんなに集約された市は県外にはなかなかないです。

今土佐市がどういう状況かという、通過地点になってるように思います。何でもランキングという項目で、仁淀川は川のきれいなランキング日本で第4位でした。こんなにきれいな川があるのに活かしきれてない、ただ知名度がないだけだと思います。ここは、文旦の発祥の地です。うつぼのタタキも高知でしか食べられてないようです。近隣のいの町や旧吾北村、旧本川村とか上流には沈下橋があります。いの町では、既に観光協会が立ち上がり、川下りをやっていると聞いています。各地域と連携を深め、ここにしかないものを打ち出してやれば何かできるのではないかと考えています。

土佐市に来ていただくとすれば、ターゲットは大阪、神戸、岡山の都市圏の方々だと思います。都市では体験できないこと、都市では味わえないものをどんどん売り出していく。集中型の営業で大きな効果があると思います。

あと、やはり情報の発信源があればいいと思います。地域を重視してまず地域の人に来てもらう、そういう場所にすればリピーターが来ますので、今度は附随して観光客が来る。そして、そこから情報を発信していく。売るのではなく発信していく。それと、土佐インターチェンジは、高知インターから帰ってきますと左手に田圃一帯がよく見える高台にあります。もしそのすぐ下にこういうものがあり、車が止まって、バスも止まっていたとします。「あそこに何ができたんだろう。」「なんか人がいっぱいいる。」それだけで、宣伝だと思います。例えば須崎、幡多に目的があって行っている人に寄ってもらう。ここを中心に情報を発信して、まず知ってもらう。そして、例えば「文旦のオーナーになりたい」とか、「こんなにおいしい魚があるのならば買いに来たい」となればいいと思います。プロの集団が集まり、同じ場所で情報を発信していくことによってすぐに知名度が上がっていき、知られて、附随して何か売れていくと思います。

最後に、来年の大河ドラマは坂本龍馬です。高知へ来る観光客は非常に増えると思います。これほど人が来るチャンスは、滅多にないと思います。「坂本龍馬が愛していたカツオ」と、ただのカツオではなく、「坂本龍馬が愛していたもの」、「坂本龍馬がいたところ」が非常に売れると思います。

知事： 仁淀川は、1キロメートル当たりの夏の水遊びをする人の数が全国ナンバーワンです。ものすごく親水性が高いです。これだけ人口がいるところの近くで、これだけの大河があるのも珍しいかもしれません。だから、すごい観光資源だと思います。仁淀川か四万十川かについては、私は高知県知事ですのでなかなか言いにくいですが、できれば四万十川に行く人が途中で仁淀川にも寄り、結果として1泊、泊まる泊数が増える形に持っていくことができればウインウインソリューションだと思います。ただ、滞在型・体験型観光の推進を県内全体で進めようとしています、高

知県は遠いので、飛行機で来るのに5万円から6万円かかります。4人家族で来たら20万円を超える旅費がかかる上に、時間がかかる。それだけ手間とお金をかけて来たのだから、できるだけ楽しむようにしないと採算がとれない。採算がとれる観光地づくりという観点からも、観光地を結びつけ、数珠つなぎでいろいろなところへ行けたら、これだけのお金と時間をかけてもよかったと思ってもらえる。そういう観光地づくりが必要だと思います。

だからぜひとも、先ほど言われたように、仁淀川流域の上流から下流の地域まで全体で連携してやっていただきたいです。さらに言えば、仁淀川の縦ラインだけではなく、東西の横ライン、東部・中部・仁淀川・高幡、それから幡多地方、それぞれで全部を体験していただく、そういう意味では地域を越えた連携も必要ではないかと思います。四国では年々人口が減ってきています。中国地方も人口が減り始めています。「花・人・土佐であい博」のときには、販売促進は中国地方まででした。ですが、近畿地方などをターゲットにしないといけないと思います。より大きいところをターゲットにすると、より大きな集客力があります。来年は大河ドラマがありますので、首都圏の東京、それから東北、北海道なども視野に入れたいと思います。毎週2回、BS放送も入れたら3回、4回、NHKが高知県を含め、関係のあるところをPRしてくれるわけです。そういう機会を活かして知名度を上げていく。だから、首都圏などもターゲットにしていきたい。ただ、大きなマーケットになればなるほど、来るのにお金と時間がかかる。だから、そのようなお客さんも受け入れられるような観光地づくりには、多分、仁淀川、四万十川と足摺岬連合だと思います。もっと言えば、安芸の岩崎弥太郎邸、室戸岬とも連合を組む、県下一円でやることになります。

それともう一つ、高知県の場合はリゾート観光地ではありません。やはり自然を活かした観光になります。体験をして観光をしたら、「もう1回行きたい」とリピーターが付くと思います。いろいろなところへ行ってもらう滞在型観光地づくり。コンセプトは、自然を活かし、体験型にしていくことだと思います。お金が落ちる観光地づくりをやっていく必要があります。ほんとに勉強になりました。ありがとうございました。